

芳川顯正 あらかし てるまさ 政治家、漢詩人。天保十二年十一月十日阿波國麻植郡川田村生れ、大正九年一月十日歿（八四—一九二〇）。幼名賢吉、通稱原田賢吉、高橋顯正、芳川賢吉。號越山、越山々人。原田民部の子男、文久元年醫師高橋氏の養嗣子とほると、のち芳川に改姓。初め有井進齋に學ぶ。長崎で瓜生寅、何禮之に就き、英學を修め、歸郷後土籍に列す。再び長崎に至り醫學、化學を學ぶ。維新後鹿児島に赴き、海軍所で航海、數學、兵學書の翻譯に従事。明治三年伊藤博文に從ひ歐米視察。歸國後、紙幣頭、東京府知事等を経、二十二年第一次山縣内閣の文部大臣として教育勅語演説。翌年宮中顧問官、爾來司法・内務・逓信大臣、貴族院議員、樞密顧問官等を歴任。また皇典講究所所長、國學院大學學長を務め、教育界にも足跡を残した。

『越山遺稿』全二冊（山田立夫編、大正十二年七月例言、無刊記）の他、岡本監輔著『越山先生傳』（明治二十九年九月十五日徳島・岡本監輔刊）、水野秀雄著『伯爵芳川顯正小傳』（昭和十五年十一月二十一日徳島・芳川顯正伯爵遺業顕彰會編刊）がある。

